

地域の人口構成など 実態をふまえた まちづくりの推進を!



同じ練馬区でも地域ごとに特色があります

「まちづくり」の基本は、「そこに住む人の暮らし」です。
同じ練馬区で、かつ隣接する地域でも、違いがあります。

過去10年間の年齢別人口推移

練馬区全体:全人口は増加 年少人口は減少傾向、高齢者人口は増加
…これを町名別に見てみると(平成21年→平成30年4月)

町名	総数			0歳～15歳			65歳以上		
	H21	H30	増減	H21	H30	増減	H21	H30	増減
貫井	18,365	19,765	1,409	1,998	2,148	150	3,623	4,393	770
向山	10,292	10,788	496	1,291	1,273	▲18	1,893	2,287	394
富士見台	14,718	15,509	791	1,880	1,499	▲381	3,201	3,719	518
高松	15,756	17,729	1,973	2,686	2,719	▲33	2,386	2,995	609
光が丘	29,414	27,817	▲1,597	3,085	3,083	▲2	5,725	8,754	3,029

○4地区では、練馬区全体と同様人口増加の傾向はあるものの、光が丘ではすでに人口減少傾向が始まっており、65歳以上人口の増加が他地区より進んでいます。

○貫井や高松では、0歳～15歳の人口が微増しています。またこの2地区は、過去10年間の建築確認数が他地区より多い傾向にあります。

地域の人口特性と、実態にあったまちづくりを!

これからのまちづくりは、今、地域に住む人が暮らしやすいまちであること、住み続けたいと思えるまちであることに加え、「これからどう変化していくか」を予測して進めることが重要と考えます。年少人口が増加傾向にある地域では、学校施設の整備はもちろん、子どもや子育て家庭への対応施設の充実が必要です。また、高齢化が進む地域では、在宅介護、独居世帯等への支援体制の充実、高齢者の居場所づくりなど、課題は多くあります。

区で把握している様々な数値データと、地域の現状を合わせて分析しながら、よりよいまちづくりを進めていきます。



練馬区議会議員 第五十九代議長 副幹事長
関口 かずお

議会運営委員会 委員

常任委員会 企画総務委員会 委員長

特別委員会 総合・災害対策等特別委員会 委員

各種委員会 民生委員推薦会、土地開発公社評議員会

ご相談は… 関口かずお 事務所

〒176-0021 練馬区貫井 3-53-8

Tel / Fax : 3998-1752 HP : <http://www.k-sekiguchi.jp/>

地球の声を聞き、日々備える

今年の夏は、これまでで一番の猛暑であったという。参考までに、練馬の猛暑日を調べてみたら、七月十三日から二十三日まで、実に十四日間続いていた。その後の猛暑日はさして多くはないのだが、毎日とてつもなく暑く感じる夏であったようにおもった。
猛暑もさることながら、西日本の豪雨、台風による被害、大阪・北海道の地震と、自然災害が相次いだ今年の夏は、改めて、自然の力の大きさをおもい、これはまさに、「地球の、声」だと、おもった。
「あんな、人間はな、地球に断りもせんと、
電車やら車やら通すのに、地面に穴開けてな、
ビル建てるのに、杭いっぱい打ち込んでるんやで。
穴開けられて、杭打たれて、痛くないはず
ないやろ。そやから時々地球は、震えたり
怒ったりする。地震も火山の爆発も、みんな
地球が痛がつてる、声、なんやで。」
薬師寺に出入りしていたころ、高田好胤下との
会話の中で出てきた言葉だ。今年、炎天下、地元を回っているとき、もしかしたら、この暑さも、地球が何かを訴えている声、なのではないかと、おもった。
七年前の、東日本大震災以来、各地で災害が起こっている。その度に、この言葉をおもいだしてきたが、今年、この言葉が、重く感じられてならない。気象庁の会見での、「これまでに経験したことのない」という表現にも、これまでの「当たり前」は、もはや「当たり前」ではないのだと、実感する。様々ななかたちで、地球の声が聞こえている今こそ、様々な可能性に備える心構えと、実際の生活の中で、行政が、地域が、どのように体制を整えていくのか、改めて考える必要がある。
災害時への備えとして、各地域の避難拠点がある。七月に、地元貫井中学校で実施された宿泊訓練に参加させていただいた。学校、避難拠点運営連絡会、区防災課、町会が連携する中、柔道部の生徒たちが全員参加し、起震車体験、シミュレーション訓練、実働訓練などを行った。若いころから山に登り、寝袋で寝るのも、たくさん経験済みの私だが、体育館の床で寝るのは、本当に大変なことだと実感できたこと、そして、中学生たちの緊張感ある、頼もしい姿は、大きな収穫であった。ただ、ひとつだけ気になるのは、この訓練が、ある種の「行事」として、地域の人に捉えられているのではないかと、思うことだ。実際に災害が起きたとき、我々は本当に動けるのか。そのためにどう備えるのか。まだまだ課題は多いように、おもった。

